

『幼稚園の現場から』

26・お話あそび会（その3）

原町幼稚園園長 鶴谷主一（静岡県沼津市）

お話あそび会（その1/マガジン24号）では、幼稚園・保育園における発表会の構造的な問題、（その2/25号）ではお話あそび会の具体的な取り組みについて書きましたが、今回はその活動を保護者に伝え、理解を得ていくための具体的なプロセスを見ていきます。

私立幼稚園の保育が経営と結びついている宿命的な運命については（その1）の冒頭で述べていますので繰り返しません、園で自分たちが考える良い保育をしようと思ったら、主旨を保護者に伝え理解を得ていくことは必ず必要なことです。とくに、今まで行ってきたことと違う方針や行事に切り替えるときは、必須となるでしょう。

私たちも、最初のころは試行錯誤しながらでしたが、一定の手がかりが持てるようになってからは、次のような手順で保護者の皆さんに活動のことを伝えていきます。

- 1.学期のはじめなどの保護者会でお話あそび会の概要を園長が話す。
- 2.クラスのお便りで、テーマや実際の子どもたちの取り組みについて随時お知らせしていく。
- 3.特集号という形で、園全体の取り組みをお知らせする。
- 4.当日開始前の前説で、オリジナルストーリーと舞台の構成、お話あそび会の特徴をふまえた観覧のポイントなどを具体的な“場”を見ながら園長・担任等が解説する。



お話あそび会当日（年少組）

子どもが入場してからの担任前説
この前に園長前説が既に終了している。

※観客はクラスの保護者と希望者のみ

※観客席、舞台設定はクラスごとに変えられる。今回はフロアを存分に使う構成

※観客が次の舞台（クラス）を見るためには一旦退場してから再入場する

特集号で伝える

クラス便りで、クラスの子どものリアルな様子が伝えられるとともに、この活動で子どもの何が育つのかを園の方針として伝えます。「なんのためにどんなことをしているのか」が理解されないと活動のねらいも伝わりません。ただ、理屈を書き並べても伝わらないので、できる限り最小限のことばで、毎年ちよつとずつ角度を変えて3年間でより深められるような構成を狙っています。この特集号という手法は運動会や音楽会という行事でも使われます。

**2015年度
『お話あそび会』特集号
年少クラス版**



日程	開始	クラス	テーマ
1月29日(木)	10:20	年少めろん組	はらべこあむし
	11:00	年少いちご組	おむすびごろん
2月5日(金)	10:20	年中ばら組	ジャックとまめのき
	11:20	年長ほし組	びじょやじやう
2月10日(水)	10:20	年中ゆき組	はるごころに
	11:20	年長つき組	おしいれのぼうけん

インフルエンザ等の流行で出席者数やそのほかの都合により日程を変更する場合があります。

★開始10分前には会場にお入り下さい。
園長が「今日の活動解説」をお話しますので、お聞き逃しなく！
★お話あそびの発表はクラス単位です。お子どものクラスだけでなくのクラスも参加できます。子どもたちの発表をぜひご鑑賞下さい。
★年中長は、前のクラスが終るとわくわくホールで園の発表をさせていただきます。帰って行く方は準備が終わるまでいっしょに園の外に出発お待ちください。帰りは次のクラスの保護者の方優先になります。
★観覧の組み替えがあるクラスは、お観覧の方にお手紙をお願ひします。(メールで事前にお知らせします)
★お話あそび会の日は無休保育です。あそびっこも無休です。

◎ はらまちようちえん ◎

お話あそび会ってなあに？

お話あそび会、絵本や童話などの「お話」を題材にして、「お話→あそび」「お話→あそび」という意味で、先生と子どもたちで自由にお話という素材を料理して、子どもたち自身が演技を楽しむのはもちろんのこと、見ているお客さんも楽しめる演劇活動として発表する会です。

私は幼稚園の現場で長年仕事をしましたが、ほとんどの幼稚園でお家の方を招いて劇やお遊戯の発表会を催します。それは劇活動が、ことば、音楽、造形、集団、生活を総合した総合的な活動だからです。

でも、ずっと疑問に思っていたことがありました。「お客さんに見せることばかりに力が入ってしまい、子どもたちが本気で楽しんでいるんだらうか」という疑問です。一人一人が考えたセリフを言うのですが、何だか神妙みに聞こえて生気が無いように感じていました。「もっと元気に話される劇はできないのか？」

そこである年、「お客さんを意識しないで子どもたちを遊ばせよう」という方針で発表しました。すると見たお母さん方から「子どもは楽しそうだったけど遊んでるのか劇やってるのか、さっぱりわかんなかった…」という感想を頂きました。

子どもたちだけイメージをふくらませて「俺はこわいオオカミなんだ、だから襲われるんだ！」と思って一生懸命演じていても、お客さんにもそのイメージを共有してもらわなくては一話に楽しめないのです。

お客さんを意識し過ぎると、「遊び」よりも「練習」のカラーが強くなるし、「遊び」に片寄るとお客さんに伝わらない。そこで、その中間あたりを狙って「やって楽しむ、観て楽しい劇の発表会」を目指してやっていたのがお話あそび会なのです。

←片面B5サイズで色上質紙にモノクロ印刷した袋とじの冊子になります

表紙と4ページまで園長が主旨を書きます

お話あそび会の特徴



- ★狭いステージの上から
舞台をフロアに広げ、子どもたちがもっとのびのびと動けるようにしよう！
こうなるとお客さんはたくさん入れますから、目にちを分けて1クラスずつの発表にしたりしてきました。
- ★音楽も
同じことになりました。
音楽に子どもが合わせるだけでなく、音楽も子どもが動きに合わせて！
劇中やオペラ劇場のように生のオーケストラが舞台の前で演奏していますよ。あの雰囲気です。(オーケストラは1はいいです！)
- ★シナリ
おに子どもを合わせるのではなく、子どもの動きとシナリオをお互いに
積み寄せよう！
ということで、シナリオは練習しながら書きかえていく方法をとりました。「今日のこの場面は子どもがうまく動けなかった」と思った場面や新しいように書きかえるのです。そのため、担任の先生は本番までに何回もシナリオを書き直します。
- ★観ていただき
たいのは「上手にできた、間違えなかった」ということよりも、子どもたちのイキイキとした表情、子どもと互いに役になり切った表現です。もちろん、お話の内容も舞台も工夫がいっぱいで驚かされる方もお話あそびの世界を、ぜひ満喫していただきたいと思ひます！
- ★普段引込み思案だった子どもや、クラスの中であまり主張をするタイプは無い子どもも、お話あそび会では役になりきって意外な一面を見せたり、練習の過程で積極的にアイデアを発言したりします。そういうステキな表現が出てくるのも、子どもたちと一緒に作っていくお話あそび会だからこそだと思います。

お話あそびを通して育てたいちから

- ①ファンタジーを楽しむちから
物語を読んでもらってワクワクすること、登場人物の気持ちや場面を想像したりすることを日常的に楽しんでいるからこそ、お話の世界であそぶことができます。
うそっこを楽しめることは、想像力のアップはもちろん、子どもにとって自分の周りの小さな世界を大きく広げてくれる感性を持つことにつながります。ファンタジーを楽しむことは今後の人生にきつと潤いを与えてくれるでしょう。
- ②じぶんを表現するちから
練習の時に大きな声でセリフが言えたり、思ったような演技ができると子どもたちは本当に嬉しそうで、先生に褒められたりすると、自信をもつて普段の生活までイキイキしてきます。自分に自信を持つことと自分を表現することは密接につながり、『自己表現、自己創出』につながる成長の上で非常に大切な経験なのです。
お話あそび会をきっかけに積極性が出てくるなど、その子のターニングポイントになることもめずらしくありません。
- ③イメージするちから
「人の気持ちが想像できるように」なってほしいと願っています。人の気持ちがわかるためには「人の話を聞けるように」なることが大切です。これらの力は普段の生活だけでなく想像力を発達させることにより育てられます。
みんなで一つのお話を演じるために、目に見えないストーリーや先生の意図する演出の意味をみんなが想像しながら場面を演じていきます。
年中長になると、友だちの意見にもじっくり耳を傾け、自分のイメージを言葉で伝える経験もしていきます。(自分の話をいっぱい聞いてもらった子どもは、人の話を聞けるようになります！)
そんな場面がお話あそびの活動には随所に詰まっています。たのしくお話あそびを進めながら、イメージを共有する力=想像力をフルに発達させているのです。

年齢別のとりくみ

年齢に合った取り組みをすることで
子どもたちが無理なくお話あそびを楽しむことができるように心がけています。



年少児は、保育者のリードに乗っかってお話あそびを楽しみます。ストーリーのあるごっこ遊びといってもいいでしょう。舞台演出や小物、大人の演技に引っ張られて子どもたちはお話の世界に入り込みます。もともと、ごっこあそびの好きな年齢ですから、ぶっつけ本番でも良いぐらいですが、一つは、きちんとストーリーを流すこと。もう一つは、雰囲気や飲みやすい年少さんのために場慣れという意味で2〜3回ほどわくわくホールを使い、お話あそびを行っていきます。



年中児は、年少さんよりはストーリーの理解も役柄の理解もできています。でも、子どもたちだけでお話を進めるのはちょっと難しいんです。そこで保育者が一部の役を演じることで子どもたちを参加させていきます。セリフはあまり重視せず、音楽をふんだんに使って、場面や動きのきっかけを作り、ストーリーを展開していきます。次の場面をドキドキして待つ、そんなワクワク感を大切にしたいです。ストーリーをみんなが理解して、「ここではほんとはやられたくないんだけど、お話の筋だから仕方がない、やらせてやろう」と、納得して自分の気持ちとは違う演技をすることも、成長の表れです。



年長児のお話あそび会は、年中少とは意識の持ち方がまず違います。お話の世界を自分たちも楽しみたい、お客さんにも楽しんでもらおう！というように演技や演出を客観視しながら、保育者に頼らず劇を進らせていくことを目標とします。
先生は本番では補助にまわり、子ども同士で役割を演じ分けながら、子どもたちのギャグやアイデアも演出に盛り込まれ、歌あり、セリフあり、アクションありのダイナミックなお話あそびを行います。毎月の誕生会で先生たちと行う即興劇も、人前で演じることを経験しお話あそび会につながるように考えてきました。
演出によっては同じ役を交代で演じ分けたり、音響効果を担当したり、演技だけを楽しむのではなく、お話あそび会に向けて、お話あそび自体を作っていくことも楽しめるようになります。子どもたちのチームワークも見て頂きたいところです。

-4-

やさしい顔で

「さあ、ぼくの出番だ！」^{ドキドキ}と思ったその時に、客席のお母さんがなんだかこわい顔をしている。^{こわい顔}実際はそんなことなくても、もうそう思っただけで、子どもの気持ちは縮んで『シュン…』^{こわい顔}となっちゃいます。お母さんになってみれば「しっかりやってるかな?」「おぶさげしてないかな?」という気持ちで見ているだけなのに……。

客席から見ていただくみなさんの表情は、演技をする子どもたちには大きな影響を与えます。お客さんがたくさんいるだけで練習の時の雰囲気とはまったく異なる舞台…それだけで緊張^{こわい顔}したり舞い上がったり^{こわい顔}する子どももいます。練習の時に見せてくれたイキイキした表情^{笑顔}をできるだけそのまま皆さんに見ていただきたいのが私達の願いです。

お願いですから、
皆さんのとおきの優しい笑顔で、
子どもたちを見てあげてください！

子どもたちは安心してお話の世界で
最高の演技をしてくれると思います。

-9-

↑2ページでこの行事の特徴、3ページでねらい、4ページで具体的な姿、そして間に各クラスの舞台設定やキャストを挟んで、裏表紙の9ページにお願いを書く。このお願いが観覧するお客さんを、傍観者から参加者という意識に立ってもらうのに大切だと思っています。

5〜8ページは、
クラスごとのテーマとあらずじ、
舞台設定などを載せます。↓



お話あそび会は、おおむね1月下旬から1週ごとに2クラスずつ行われます。

1週目に年少組が2クラス、2週目と3週目に年中長が2クラスずつです。

3週間の時差があるため、年少組に特集号を配布する時期には3週目のクラスの内容、キャストも決まっていなことが多いのです。そのため、年少版を出した次の週に、特集号年中長版を改めて発行します。

お話あそび会スナップ



保護者の方から

最後に、この活動がどう保護者に伝わっていったか見ていきます。

こんなエピソードもあります。原町幼稚園を寿退職して愛知県に引っ越した先生が、幼稚園に再就職しました。年長の担任を担当したとき、年末の発表会に「お話あそびをやらせてほしい」と園長に直訴したそうです。その園では一般的な生活発表会を行っていたので、年長は劇を演じることが恒例だったそうです。通常の劇というと、市販のバック教材を使っただけの劇だったと思います。そこで初めてお話あそび会形式の発表を行ってみたいところ、保護者にも園長にもとても喜ばれたと報告してくれました。柔軟に受け入れてくれた園長先生にも感謝ですが、「良い」と思ったことを実践する先生にも感心しました。

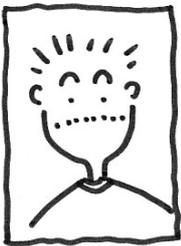
さて、長くなりましたが、2007年度に保護者の方から涙が出るほど嬉しかった感想を頂いたことがありますので、それを要約して紹介します。

『なんと楽しい会でしょう！』というタイトルで始まり、もっともっと見ていたいと思いました。先生と子どもたちが一生懸命作り上げた作品を、クラス全員が自信を持って楽しく取り組んでいることが伝わってきて、何度も胸が熱くなりました。・・・と書いてありました。

まさに、お話あそび会は、演劇活動を通して子どもたちのイキイキした姿や成長を見せる場であり、短いことばでそれを言い表してくれていることに感動いたしました。「楽しさ」は、「ハイやりますよ、つぎ覚えて！ほら言う通りにしっかりやって！」なんて姿勢の保育では生まれてきません。子どもの中に意欲の炎が燃えていないとダメなのです。そして意欲を燃やすためのエネルギーはこれまた「楽しさ」。

感想を頂いてから、もう10年も経っていますが、毎回毎回新しい課題に悩みつつ、この面倒で手間のかかる、とても楽しい活動を続けています。

面白そうだなあ！と思われた保育者の方、ぜひぜひやってみて下さい!!!



原町幼稚園 園長 鶴谷主一

HP : <http://www.haramachi-ki.jp/>

MAIL : osakana@haramachi-ki.jp

Twitter : @haramachikinder



「幼稚園の現場から」マガジンラインナップ

- 第1号 エピソード
- 第2号 園児募集の時期
- 第3号 幼保一体化第
- 第4号 障害児の入園について
- 第5号 幼稚園の求活
- 第6号 幼稚園の夏休み
- 第7号 怪我の対応
- 第8号 どうする保護者会？
- 第9号 おやこんぼ
- 第10号 これは、いじめ？
- 第11号 イブニング保育
- 第12号 ことばのカリキュラム
- 第13号 日除けの作り方
- 第14号 避難訓練
- 第15号 子ども子育て支援新制度を考える
- 第16号 教育実習について
- 第17号 自由参観
- 第18号 保護者アナログゲーム大会
- 第19号 こんな誕生会はいかが？
- 第20号 ITと幼児教育
- 第21号 楽しく運動能力アップ
- 第22号 〔休載〕
- 第23号 大量に焼き芋を焼く
- 第24号 お話あそび会（その1・発表会の意味）
- 第25号 お話あそび会（その2・取り組み実践）
